蒲原・代官田遺跡

福岡県八女市蒲原所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書　第１１６集

２０１６

八女市教育委員会

蒲原・代官田遺跡

福岡県八女市蒲原所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書　第１１６集

２０１６

八女市教育委員会

序

八女市西部の蒲原地区は、宝治２（１２４８）年の「室園文書」にその名がみられ、八女市立花、及び現在の八女市の中心地を含んでいた荘園である、上妻荘に属していたと考えられています。後に江戸時代になると、久留米藩の史料「寛延記」に蒲原にある館跡についての記述がみられます。

八女市では現在、南北朝時代を通じた自治体間の交流事業を行っているところですが、今回の発掘調査で出土した陶磁器片には、ちょうど鎌倉時代の終わり頃から南北朝時代にかかる時期と考えられるものが含まれ、その時代蒲原の地で人々がどのような暮らしをしていたのか、わずかながらうかがい知ることのできる資料となりました。

最後に、当該遺跡の発掘調査に格段のご理解をいただきました事業者様をはじめとする関係各位、及び地元町内の皆様方には並々ならぬご協力と応援をいただきました。

深くお礼を申し上げると共に、今後の文化財行政につきまして、これまで以上の暖かいご声援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

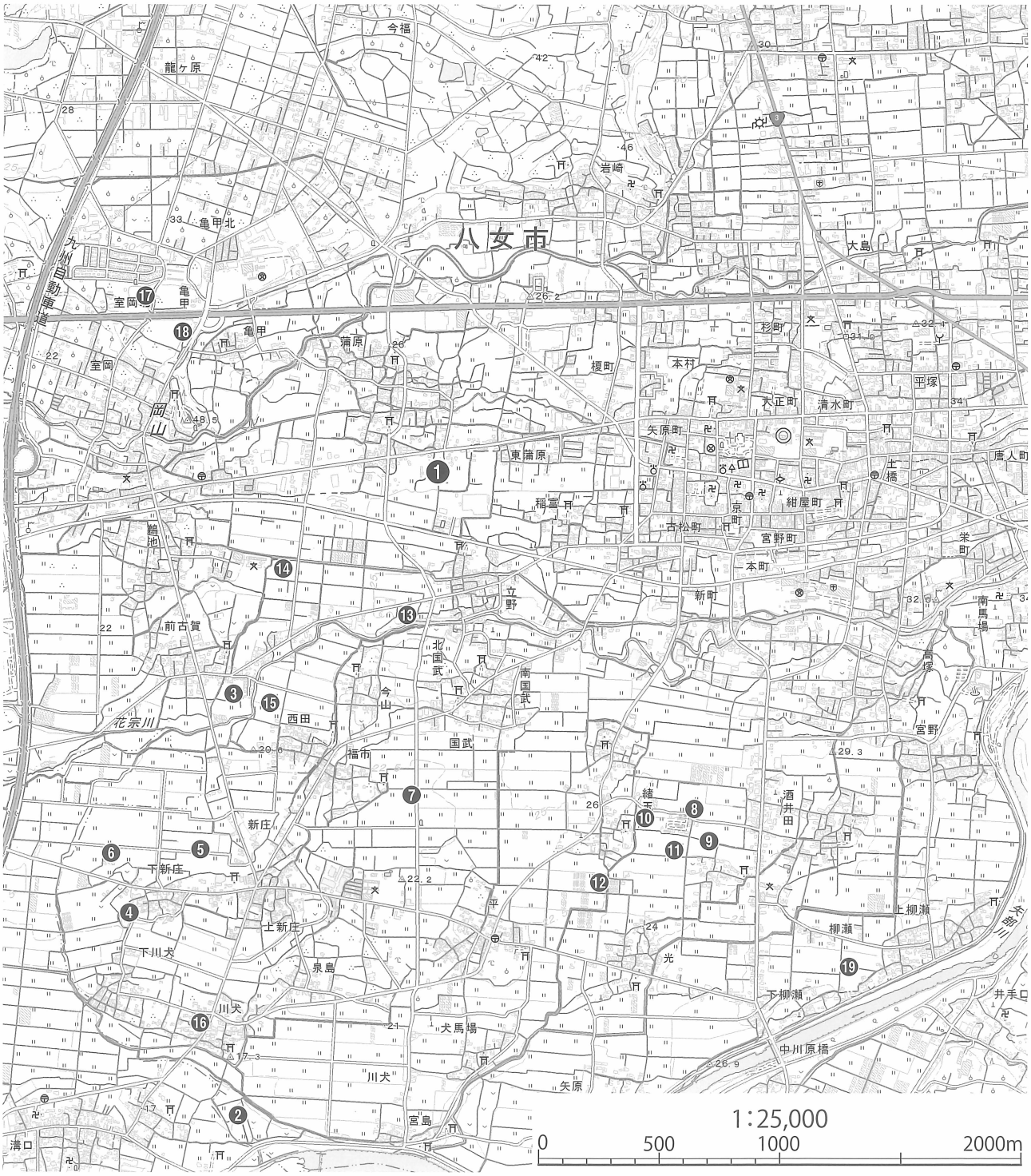
平成２８年１２月２８日

八女市教育委員会

教育長　西　島　民　生

本文目次

1 調査の経緯・・・



1．蒲原・代官田遺跡　2．柿園・御輿休遺跡　3．前古賀・五反田遺跡　4．新庄・六反田遺跡
5．宮ノ后遺跡　6．ヒヤケ遺跡　7．中里遺跡　8．深田遺跡
9．京田遺跡　10．野田遺跡　11．二反田遺跡　12．宿町遺跡
13．立野・大坪遺跡　14．樋の口遺跡　15．川原遺跡　16．川犬古墳群
17．西山ノ上遺跡　18．亀ノ甲遺跡　19．アモメ遺跡

第1図　蒲原・代官田遺跡　周辺遺跡分布図〔1/25,000〕

第2図　蒲原・代官田遺跡　遺跡位置図〔1/2,500〕

1 調査の経緯

(1) 調査に至る経緯

調査の契機は、蒲原遺跡群内において、個人事業者により集合住宅の建設が計画され、文化振興課に埋蔵文化財の照会があったことによる。当該地は、東側の道路を隔てた北東側の集合住宅の建設時で土器片の出土が確認されており、150m 南東では弥生中期を中心とした集落遺跡である一竿遺跡の調査が行われていることもあり、当該地に埋蔵文化財が存在していることが想定されたので、平成 27 年 3 月 10 日に確認調査を実施したところ、溝状の遺構が確認され、土師器片の出土があった。平成 27 年 9 月 18 日に埋蔵文化財の発掘の届出が提出され、平成 27 年 10 月 13 日に本調査を開始、11 月 11 日に現地での発掘調査を終了した。翌年の平成 28 年度には整理作業と報告書の作成を行った。

(2) 調査体制

【平成 27 年度】(現地調査時)

(調査主体)

八女市教育委員会	教育長	西島民生
文化振興課	課長	井上秀樹
同	課長補佐	月足稔
文化財保護係	係長	中川寿賀子
同	係員	永田寧(調査担当)
同	同	檀佳克
同	同	渡部真弓

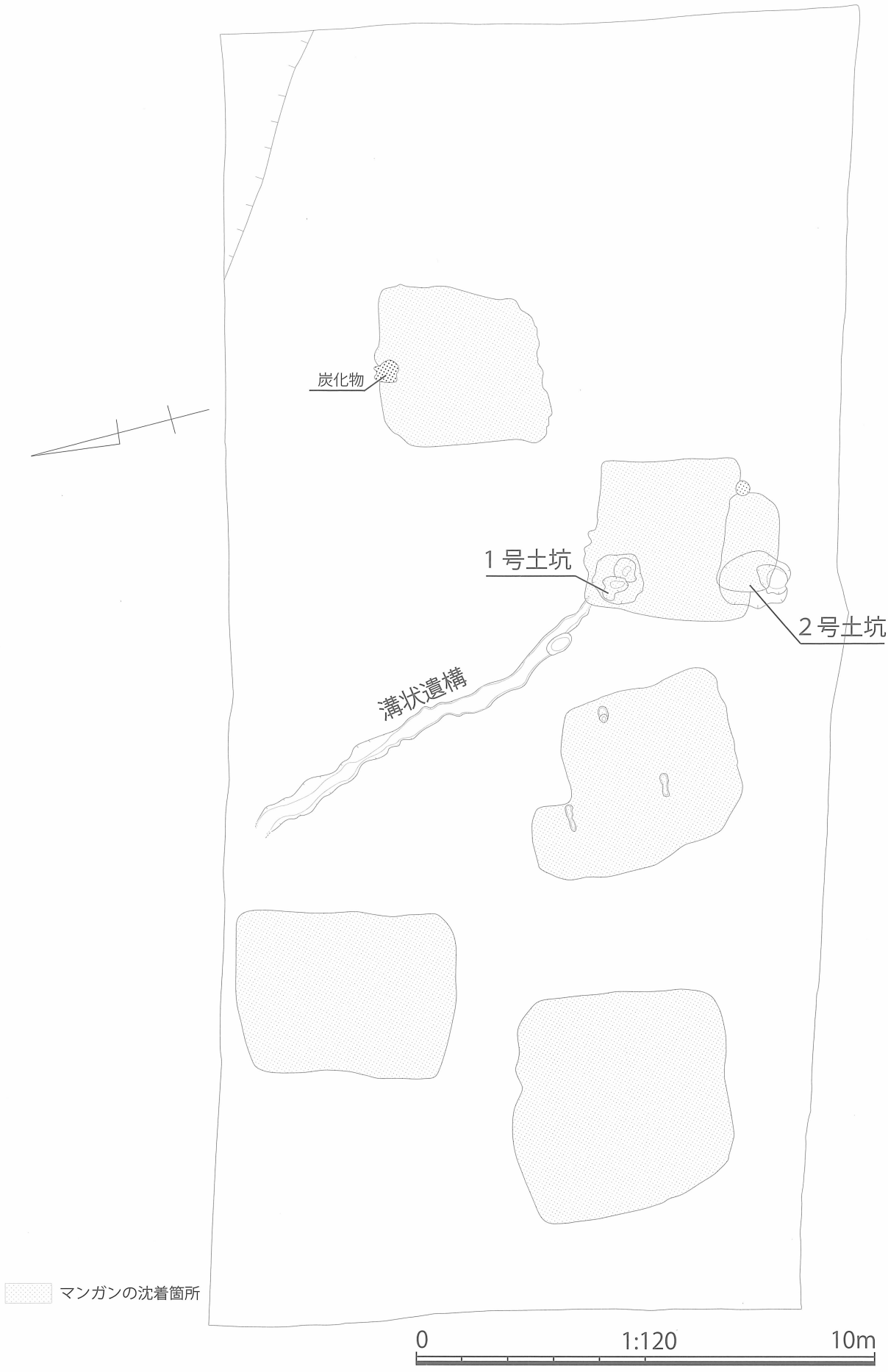
【平成 28 年度】(整理作業・報告書作成・刊行時)

(調査主体)

八女市教育委員会	教育長	西島民生

(調査総括)

八女市役所		
新社会推進部	部長	室園哲也
文化振興課	課長	栗秋克彦
文化財保護係	係長	中川寿賀子
同	係員	永田寧
同	同	檀佳克
同	同	渡部真弓
同	嘱託	多賀晴司



第3図　蒲原・代官田遺跡　遺跡位置図〔1/2,500〕

2 位置と環境

(1) 地理的環境

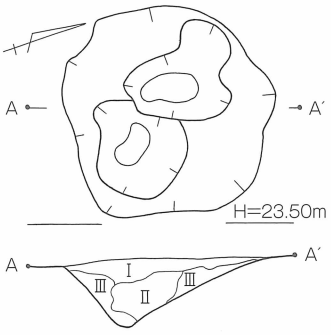
八女市は平成18年に八女郡に所在していた上陽町と、平成22年2月には立花町・黒木町・星野村・矢部村の2町2村と合併し、福岡県下で2番目の、東を大分県、南を熊本県と接する広大な自治体となった。多様な生産活動が見られ、東の山間部では杉や檜を中心とした林業が盛んであり、その地形を巧みに利用した文化的景観としての棚田も多数みられる。また中山間部においては、茶や巨峰などの生産が行われている。平野部では苺や梨、電照菊などが生産されている。

これらの生産活動を可能にしている立地は、大分県との境にそびえる釈迦岳を源とし、有明海に向け西流する一級河川の矢部川が形成したものである。矢部川は以前、水上運搬に供され現市域で行われた産業すべての要であった。

現在の交通事情を概観すると、八女市内には大分県まで延びる国道442号線が東西に走り、交通量の増大に比例しバイパス道路の建設・開通も急ピッチで進んでいる。また、西部地区には九州の大動脈である国道3号線や九州縦貫自動車道が南北を貫いており、八女西部地区はまさに九州のクロスロード的な性格を持っている。

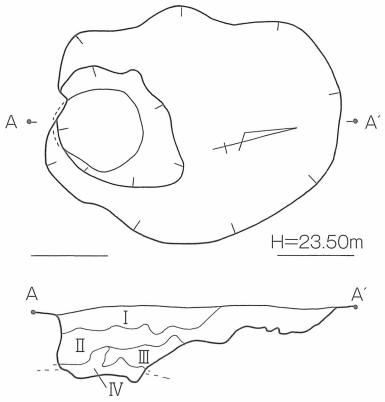
(2) 歴史的環境　蒲原遺跡群は八女市西部の、八女市街地中心から1km程度西側の微高地にある。蒲原地区は鎌倉時代の「室園文書」や近世の「寛延記」などにその名を見ることができ、荘園の様子や、館跡の存在などをうかがい知ることができる。

今回調査した蒲原・代官田遺跡はこの蒲原地区の微高地の南西端にあたる位置にあたる。



I　明黄色砂質土(明灰色粘性土を約50%含む)
II　明灰色粘性土
III　明黄色砂質土

第4図　蒲原・代官田遺跡
1号土坑実測図〔1/40〕
(図版2の2)



I　明黄色砂質土(明灰色粘性土を約50%含む)
II　明灰色粘性土
III　灰黄色砂質土
IV　暗灰色砂質土

第5図　蒲原・代官田遺跡
2号土坑実測図〔1/40〕
(図版2の3)

3 調査の内容

本調査前に実施した確認調査時に試掘坑により断面を確認した際、耕作面直下に土師器片が出土した包含層（A）、その下にマンガンが沈着した土層を約 10cm ほどの厚さで確認し、さらにその下に 10cm ほどの厚さの包含層（B）を確認し、その下に溝状遺構を確認した。本調査で表土下のマンガンの沈着の範囲を確認した後、その下層の包含層（B）下の境界で遺構の検出を行った。また調査区は北東隅において上記の２層の包含層を切るかたちで落ち込んでおり、その上の暗黒色土からは弥生土器の小片が出土している。

（1）遺構と遺物

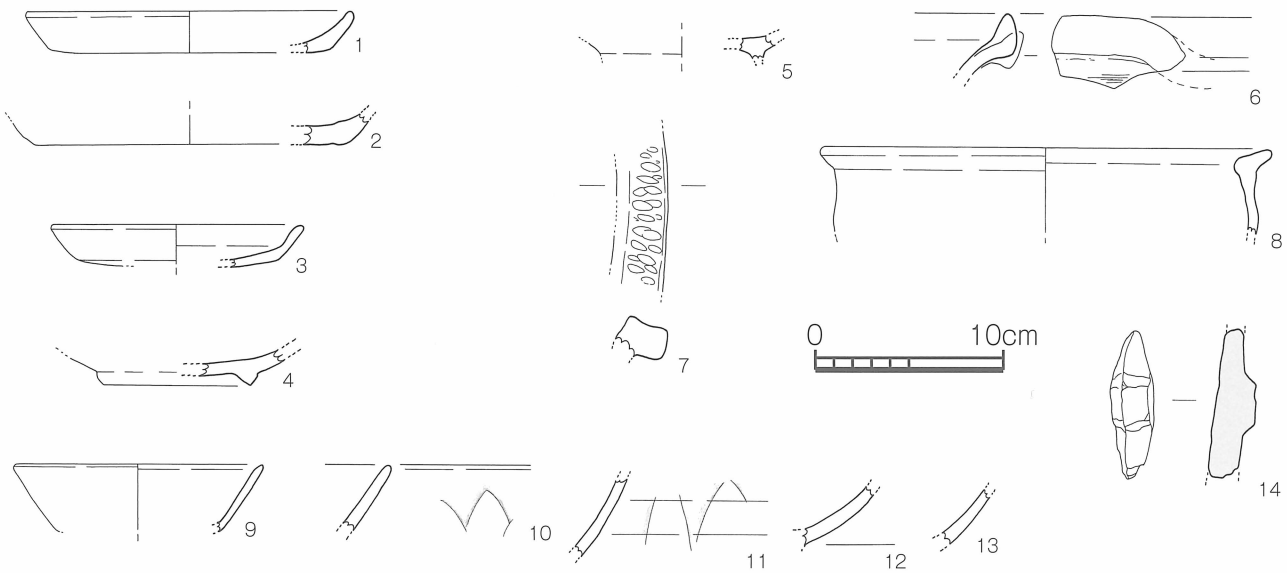
遺構は溝状遺構、土坑２基、ピットを検出した。遺構中に遺物を伴うものは確認できなかった。

遺構

１号土坑　調査区の中央南側で検出された土坑で、最大 1.55m の歪んだ楕円径の土坑で、出土遺物は無い。

２号土坑　１号土坑の南西側で検出された土坑で、最大径 1.10m、摺鉢状の断面を呈する。出土遺物は無い。

溝状遺構　確認調査時に設定した試掘坑で確認できていた溝状遺構で、長さ 10m。幅最大約 0.2m。出土遺物は無い。



第6図　蒲原・代官田遺跡　出土遺物実測図〔1/3〕

遺物

出土遺物は包含層中か、遺構検出面にて見つかっているもので、遺構に伴うものは無い。1は確認調査時の表採遺物で土師器の皿の口縁部～底部片で復元口径 13cm、器高 1.5cm、摩耗が顕著で調整不明。2はマンガンが沈着した土層を検出時に出土したもので、土師器の坏、底部に糸切り痕、高台が付く。復元底径 12.5cm。3～5は瓦器の皿で、3は表採した遺物で瓦器皿の口縁～底部片、復元口径 10.3cm、器高 2.1cm。4は包含層（B）より出土した高台付きの底部片で、復元底径 5.8cm。5は包含層（A）から出土した瓦器椀の底部の小片。6はマンガンが沈着した土層の検出面で見つかった瓦質の片口鉢の口縁部片。7は表採で土師質の口縁部片、器種不明。8は表採で甕の口縁部片で口縁部端～内部に釉が施される。9は表採で白磁の直口の口縁部小片。10 は表採の青磁で直口の椀の口縁部片で釉は青緑色、外面に広めの蓮弁文を有する。11 は表採の青磁の椀の小片で、色調は黄味がかっており、胎土は黄灰色で精緻、外面に蓮弁文。12 は表採で青磁の小片、色調は青緑色、外面に蓮弁文。13 は表採で青磁の小片、色調はくすんだ緑色、外面に蓮弁文。14 は包含層（A）で出土の滑石製の石鍋転用品。

4 総括

今回の調査では、確認調査によって南側および東側に落ち込みがみられ、現地形と照らし合わせて、おそらくこの蒲原・代官田遺跡が蒲原遺跡群の南端であると考えられ、蒲原遺跡群がどの程度の規模をもって広がっているのかを考える上で、大変重要な成果を得られた。マンガンの沈着は遺構との結びつきを考えることはできなかった。

出土遺物を伴った遺構はみつからず、その性格も不明なものばかりで、遺跡の時代を考えるには資料が不足しているが、出土している陶磁器などの遺物は１３～１４世紀と考えることができ、今後この地区における調査によって蒲原遺跡群の詳細が明らかにされることが望まれる。

図版

図版１

（１）

試掘時

（２）

検出作業

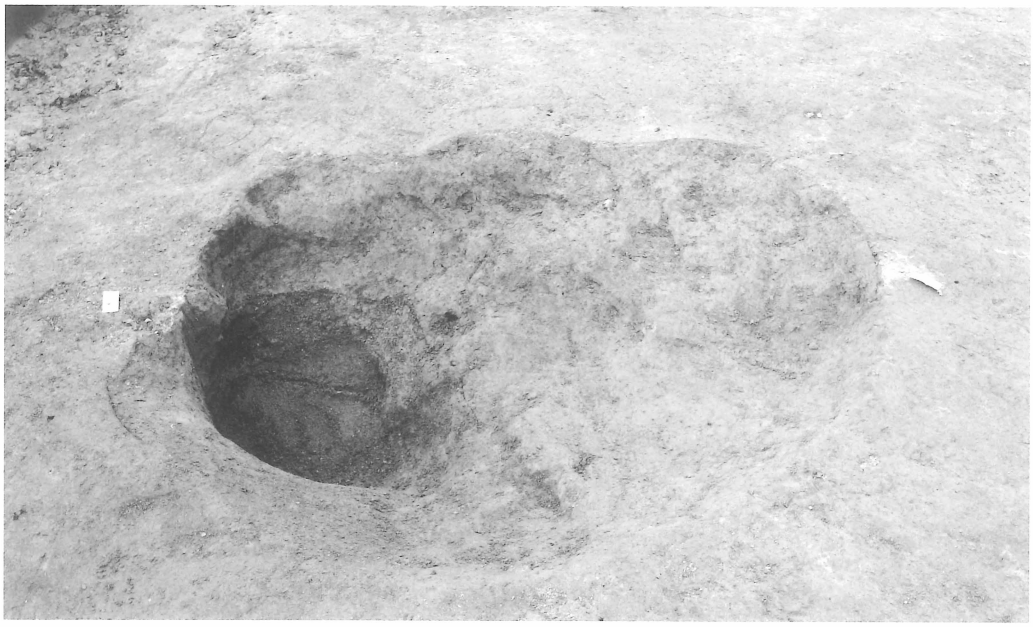
（３）

全景（東から）

図版２

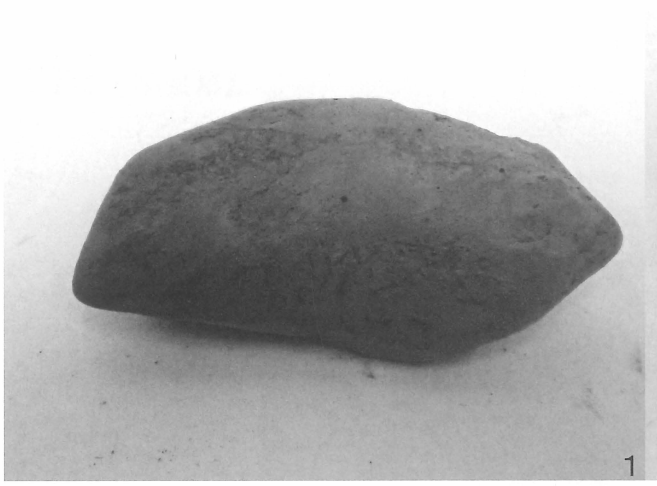
（４）
遺構掘削・測量
（東から）

（５）
１号土坑（東から）



（６）
２号土坑（東から）

図版３


1

2

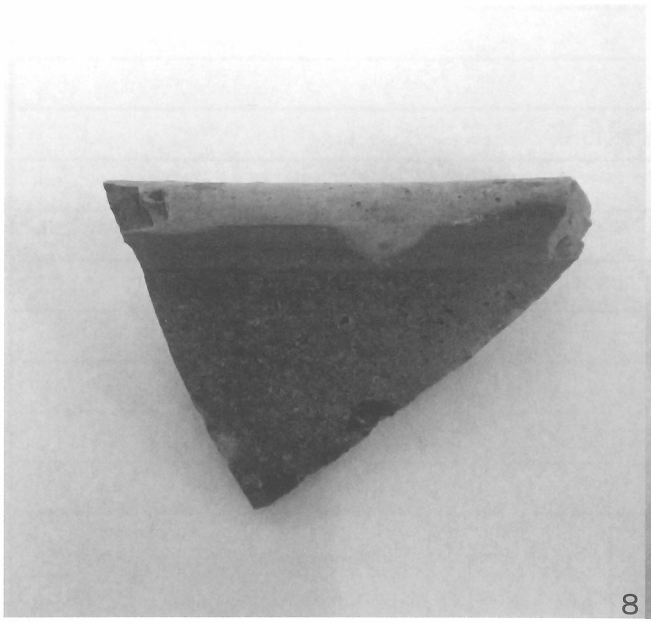
3

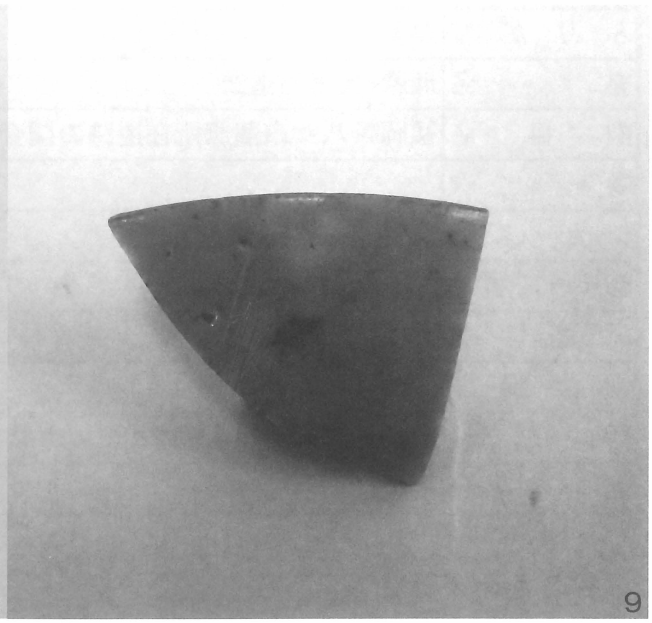
4

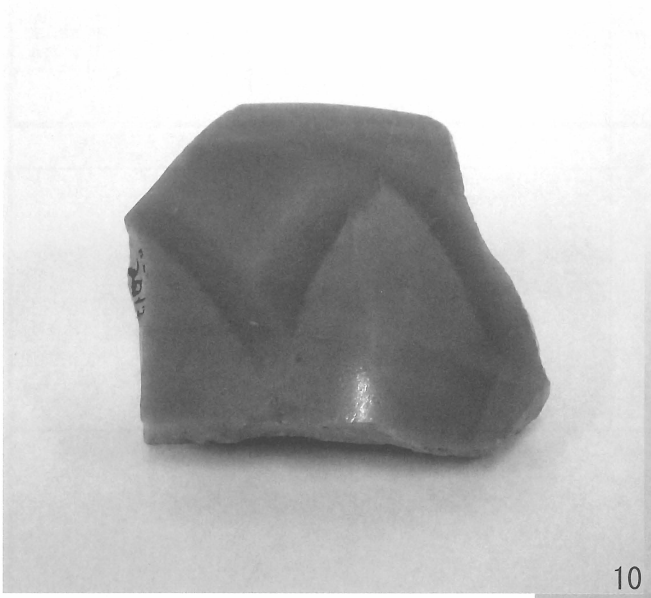
5

6

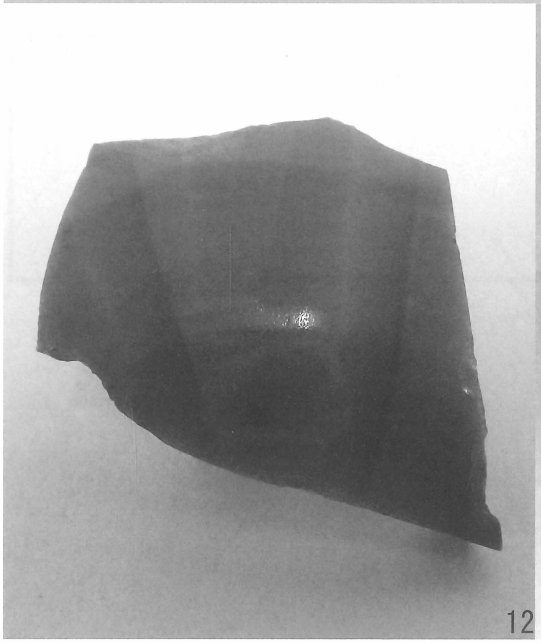
7

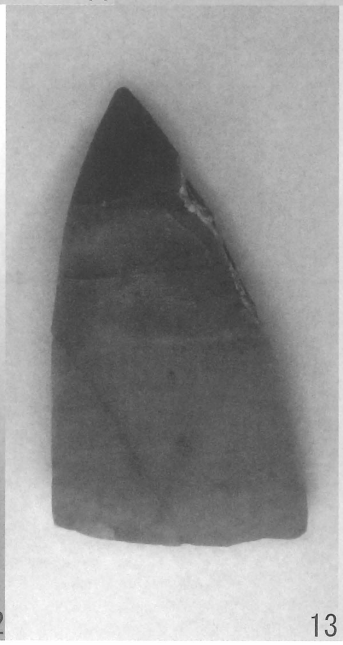

8

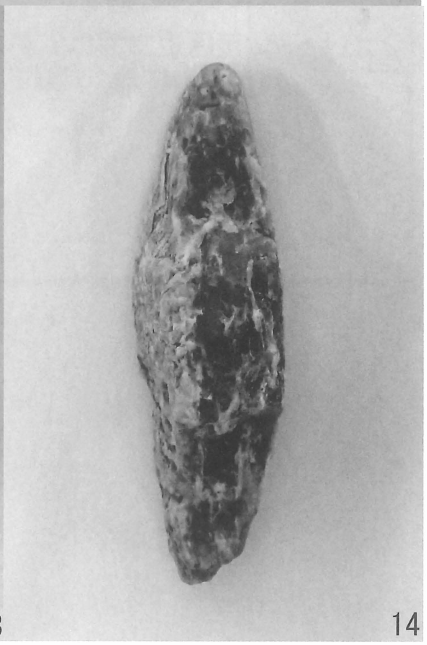

9


10

11


12


13


14

報 告 書 抄 録

ふ り が な	かまはら・だいかんだいせき
書　　名	蒲原・代官田遺跡
副 書 名	福岡県八女市蒲原所在遺跡の調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	八女市文化財調査報告書
シリーズ番号	第116集
編 著 者 名	永田　寧（ながた　やすし）
編 集 機 関	八女市教育委員会
所　在　地	〒834-8585　福岡県八女市本町647　TEL 0943-23-1982
発 行 年 月 日	西暦2016年12月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
かまはら 蒲原 ・だいかんだ 代官田	ふくおかけん 福岡県 やめし 八女市 かまはら 蒲原	40210		33° 12′ 39″	130° 32′ 33″	2016.10.13 ～2016.11.11	500㎡	集合住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
かまはら 蒲原 ・だいかんだ 代官田	集落	中世	・溝状遺構 ・土坑	・土師器 ・瓦器 ・陶磁器 ・石製品	

要約	蒲原遺跡群の広がる微高地の南端に位置し、土坑、溝状遺構がみつかったが、遺物を伴うものは無く、時代は不明。遺物は13～14世紀頃の陶磁器が出土している。

蒲原・代官田遺跡
八女市文化財調査報告書
第１１６集
平成28年12月28日
発行　八女市教育委員会
　　八女市本町６４７
印刷　橋爪印刷
　　八女市吉田１８９９－１

蒲原・代官田遺跡
八女市文化財調査報告書　第116集　2016
八女市教育委員会